

## 新規就農・担い手育成の取り組みは

市長／今後さらに力を入れていく。



中村久幸 議員

### 農業振興について

**議員** 耕作困難な農地が、地目変更できないため、新たな農地拡大が出来ない状況だという事だが。

**農林水産部長** 今年度、農業振興地域の見直しにより、農用地区域の周辺部にある復旧が困難な山林化している農地については、なるべく農用地からの除外を行い、非農地の判断については、農業委員会においてしていただく。今年度中に見直しをして取り扱いは、来年30年度以降と考えている。

支援を行っている。本市の農業の主要な担い手として、認定農業者の育成、確保が現在、重要と考えて取り組んでいるが、将来の農業の担い手となる後継者、あるいは新規就農者の確保に、今後さらに力を入れていかなければならない。



山林化する農地

- ・ 島鉄跡地無償譲渡問題
- ・ 有馬商業高校跡地問題

**議員** 南島原市独自の、新規就農支援のあり方、また、担い手育成事業への現在の取り組み及び、将来の展望について。

**市長** 国の農業次世代人材投資資金を活用して、就農後、最長5年間助成金を交付して、安心して就農できる環境を整えている。また、農業高校、農業大学などの就学費を助成する本市独自の農業後継者育成事業により、農業を志している若い人たちの支援を行っている。また、認定農業者の方々に、機械あるいは設備の導入への補助、融資や技術的な指導など、計画に沿った営農が進むよう、県や関係団体と連携して

### 産後ケア事業について

**議員** 事業内容と今後の取り組みについて

**福祉保健部長** 家庭で十分な援助が受けられずに、心身の不調や育児不安があり、特に専門的な支援が必要な方を対象として

具体的なには、助産師などの看護職の方が中心となつて、母親の身体的な回復のための支援、授乳の指導、乳房のケア、新生児・乳児の状態に応じた具体的な育児指導などを行うもので、平成30年度から始めて、産後初期の支援を強化していく必要がある。

## 市民生活に関わるものは積極的に取り組むべき

市長／十分精査しながら対応する。



田中次廣 議員

### 原城跡の世界遺産登録に向けた周辺整備について

**議員** 平成29年度において、観光拠点となる物産館や案内所の機能を備えた施設の整備に着手することだった。

**副市長** 基本設計案を作成中で、原城付近に敷地面積1ヘクタールで、物産館（直売所）、観光案内所、軽食等ができるレストランなどを考えている。

**議員** 世界遺産も、地理的なもの、登録される客体により、取り組みは変わってくると思う。南島原市で出来るまちおこし

や、振興を考えた周辺整備に取り組むことにより、皆さんの世界遺産に対する認識が高まると思う。市民と一体となった世界遺産登録であるべきと思う。

**市長** そのように思う。何が一番必要か、また大事か十分精査しながら対応する。

**市長** 世界遺産登録は行政だけのものではなく、世界遺産登録をきっかけに活用すること、地域の経済を含め、いろんな形で活用していくことが大事と思う。

**議員** 来年度は、公共施設の大規模改修、学校、それから少子高齢化に伴う、大幅な歳出の増加が見込まれるが。

**議員** 世界遺産に登録された後の形が見えてこないことで、世界遺産登録について機運が盛り上がりつつないと思う。世界遺産に登録されてよかつたのと、市民の皆さんに喜んで頂ける、周辺整備を行って頂きたい。

**財政課長** 有家小学校の改修、旧有馬商業跡地の活用に係る経費、給食センター工事に係る増加を予定している。社会保障関係では保育士の処遇改善、保育士の報酬引き上げなど見込んでいる。

**議員** 空き家バンクの登録を行い、人口増加を図る取り組みを行っているが、空き家バンクに登録されている件数と、この制度の利用状況は。

**企画振興部長** 今まで98件の登録があり、67件が契約済み、18件については、本人の都合で取りやめられ、あと13件が残っている。

### 平成30年度の予算編成について

**議員** 平成28年度からの合併算定替えにより、段階的に縮減されるなか、行財政改革が求められるが、市民の皆さんの生活に関わるものについては、積極的に取り組むべきと思う。



原城跡